



Information5



暖かくなり虫が増え始め、予防シーズンに入りましたね。

今回は**フィラリア**について詳しくお話します♪

フィラリアは犬・猫の心臓や肺動脈に寄生します。

蚊が媒介して感染し、重症化すると**命に関わる病気**なのです…



症状

軽度

・無症状 ・ときどき咳をする

中等度

・咳が増える ・状態が悪くなる ・運動を嫌がる（散歩）
・元気がない ・食欲が低下する

重度

・運動後の失神 ・呼吸が苦しそう ・持続的に咳が出る
・お腹が膨らんでいる ・全身状態の悪化

急性症状

・食欲不振 ・呼吸困難 ・虚脱 ・蒼白 ・血色素尿



死亡

フィラリア症に感染している犬から
蚊が血を吸い、マイクロフィラリア（L1）を
体内に取り込む。

L5 が成虫に成長し、
肺動脈や心臓に寄生する。

（感染後 120 日から～）

感染後 180 日以降、成虫が
マイクロフィラリアを産生。



フィラリアのライフサイクル

L3 が犬の腹部、胸部組織に
移動しながら、L4 に成長する
（感染後 3~70 日）

L5 に入ると肺血管に侵入
（感染後 50 日~120 日）



蚊の体内で、
2 週間程度かけて
L1 が L3 に成長する



蚊が別の犬の血を吸い、
L3 が犬の結合組織に入る
（感染後 9~12 日）。

フィラリア予防の前に血液検査を！

フィラリアのお薬は**駆虫薬**です。つまりフィラリアの幼虫を駆除して
フィラリアが心臓に到達するのを防ぐ薬なのです！

フィラリアに感染している犬に投薬をするとキケンです・・・

血中に存在する大量のマイクロフィラリアに影響し、場合によりショック症状を
起こし、最悪の場合死に至ることも！

フィラリアは人獣共通感染症のひとつとしても知られています。

なので、安心して投薬するために、**毎年血液検査は大切**です！

フィラリアのお薬には錠剤タイプ、スポットタイプ、チュアブルタイプと
色々な種類があります。錠剤が苦手な子でも安心です！

お薬は毎月 1 回蚊が出始めた 1 か月後から、蚊がいなくなった

1 か月後までが投与期間です。室内飼いでも感染します。

大切な家族を守る為にもフィラリア予防をしっかりとしましょう！！